広報
こすど
発行所　小須戸町公民館
新潟県中蒲原郡小須戸町
印刷発行編集人　矢部藤三郎

塵芥焼却場本ぎまり

十月臨時議会開く

十月七日、第五回の臨時議会が開かれました。付議事項は

一、塵芥焼却場建設変更について
二、財産の取得について
三、契約の方法並びに締結について
四、入札の方法変更について
五、一般会計歳入歳出更正予算

等でありました。

議案第一号
塵芥焼却場建設地変更について

三月議会で矢代田三沢沖に設置する議決がありましたが、種々の事情からその設地を変更せざるを得なくなりました。幸い今回同じ矢代田字の前野内に敷地（二百十坪）を買収する話し合いができいよいよ建設が軌道にのることになりました。

東大通川の新保寄り、農道九号線（矢代田駅裏に出る町道）添いであります。

建設される焼却炉は一日の焼却能力が五・六屯（千五百貫）炉で運搬用車は既に購入されています。塵芥の飛散、危険物の散乱防止には農業委員会より要望もありましたので、不満のないような設備がなされます。

その他は関連する議案でいずれも原案通りに可決いたしました。起債額は当初百五十万円を予定していましたが、百万円に減額されるのではないかと思われます。

いつもおくれる　いやな人

新生活入選標語

先月の広報でお知らせしましたウデコキ、矢代田両保育園は、さる十月十八日入札が行なわれました。その結果ウデコキ保育園は名古屋組が、矢代田保育園は田巻コンクリート工業株式会社が、それぞれ犠牲を払われて工事を引受けてくれることになりました。竣工はウデコキの方が年内一杯矢代田の方が十二月十日となっています。

全町一致で小須戸橋の

早期完成へ

皆さんすでに御承知の通り、昭和三十四年度より三カ年計画で、総工費一億二千万円の予算額をもって起工されましたが未だ完成の時期に至らず見られる通りの現状であります。

この間、町議会及び町当局は関係各方面に対して予算獲得、早期完成と陳情、請願等を行なって参ったのでありますが、如何ともなし難く今まで延々している実情であります。

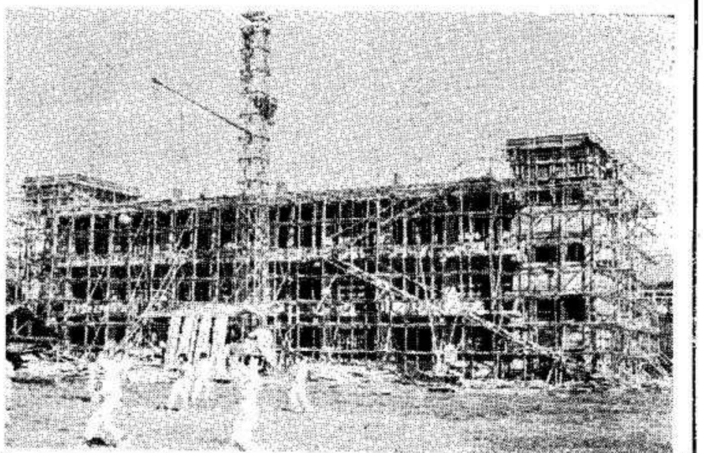
ちなみに昭和三十七年度までに計上されました工事予算額は次の通りであります。

昭和三十四年度	七、七四〇千円
昭和三十五年度	一〇、三七〇千円
昭和三十六年度	一〇、五七七千円
昭和三十七年度	二四、〇〇〇千円

となっております。

昭和三十八年度内に完成する為の見積予算額は五八、九一万九千円を必要としております。

昭和三十七年度に於ける工事概要を申上げますと、信濃川右岸（小須戸町側）取付道路の整備及び上部鋼材二連工場発注となっており、昭和三十八年度には上部鋼材残一連及び左岸（白根市側）取付道路の整備並びに上部鋼材の運搬架設となっております。どうしても昭和三十八年度内早期完成を念願しまして尚一層予算獲得、早期完成の運動を推し進める所存でありますので、今後とも御協力をお願い致します。


完成近い中学校舎

幸福をたずねる

矢代田　壺屋徳一

人はなんの為に生きようとしているのだろうか　それは勿論、幸福に生活する為だと思うが、人は食う為とか楽しむ為とかいろいろと話される。

それではこの楽しみと幸福とは、どんな関係を持っているのだろう。専門家は一口に神の世界に近い絶対の世界に達しようとしているというが、学者とか理想の高い人々とかは、その目標に達し得ないで頭にくる場合もあると思う。こうした一つの例と、二つ目は単調な生活をしていても、自分は満足だと思い楽しいと思い、幸福だと思っている人もあると思う。

人間は生まれ乍らにも色々の道が付き纏まっているが、それはその人その人によりけりであるから一概には言えないにしても、本当に考えてみると余りにも復雑なものが私達を取り囲んでいるように思えてならない。

それでは私達の幸福というのは、自分の要求が満たされた時、之も考えれば一つの幸福かも知れない。いくら自己満足の要求が満たされたとしても、必ずしも幸福でない場合があると思う。幸福についても何でも人間であるから考えざるを得ない。考えるということは大切である。だれしも立派な住宅に住み、おいしい物を頂き、美しい洋服を身につけての楽しみはみな知っておられるから他の方法で幸福を求める道を考えて見たい。

それで話を一寸転じて池田首相は「所得倍増」といううまいキャッチフレーズを考えたものだが、これは政府の運営如何によっては、必ずしも手放しに喜べる問題でないと思われる。サラリーマンや会社員や公務員は、やがてわが月給が二倍となり、今の苦しい生活から逃れ出ることができる？と思えば、だれだって気分の悪いはずがない。三万円の給料が二倍になって六万円になれば、いま新聞雑誌にはなやかな広告があふれているテレビでもステレオでも、高級洋服でも近い将来は自分のものとなると思えば、一ぺんに雲の上にもあがりたい気分になるのも、決して不思議なことではない。そうしたムードが自然の間に私達に行きわたっているが、単純に算術的な所得倍増に考えが結び付かないであろう。

それはさておいて所得倍増はよいとして**犯罪の倍増**では、一般社会は不安に堪えない。最近の新聞を見ていると、青少年の集団窃盗、愚連隊だのやくざ組等の暴行、又は悪質な集団列車強盗等の事件も大都市だけではなく、地方都市にまで現れて来ている。その他自動車、トラック、ダンプカーのひき逃げとか衝突だので毎日全国で百数十人の死傷者を出しているそうであるが、被害者の身になって考えて見ると本当に憂慮に堪えない。こうした騒々しい悲惨な世の中も僅か少数の非行者の為に、善良な大衆が常に脅やされているが、住みよい町を造り、住みよい社会を造るには、みんなの力で非行者を出さないことである。非行者が一人出ると百人も千人もの人が脅威を感じる。これらのことは一般社会人の平素の注意と指導、協力によって冷血無惨な非行者も、少しでも世の中の為になり、又人を喜ばせ他をしあわせにしたいという心持ちになるのであるまいか。

いずれにせよ騒々しい世の中にあって、お互が毎日明るい笑顔でしかも悔いのない一日、喜びの一日、感謝の一日を送り通すのが別の面の真の幸福であり、又そのように努力すべきであると思う

サービスと技術をモットーに

理容師組合で講習会

小須戸町理容師組合では店員及び理容師の技術の向上をはかる為、さる十月十五日新潟より講師をまねき講習を開いた。町の業者三十数名が参加して一日実習により技術を磨きあった。今後も組合と共に協力し合い一層技術の向上をはかると共に、サービス精神を身につけた理容師にしたいと商工会はいう。

科学歳時記

こおろぎ

「私の虫小屋で育ててみた虫の教えるところによると、どうもオスのコオロギには、声を立てないメスのところへ、うまくみちびかれる特別の方法があるらしい。いつどういう風に出会いが行われるか？…　私の推測によると、事はたそがれのつつましやかな微光の中で恋人の住居の入口で、あの砂を敷きつめた前庭で行われるに違いない。」

これは、ファーブルの昆虫記の中の「こおろぎ」の一節である。このあと彼の観察した彼等の婚姻の様子が続く。

「私の虫小屋には幾組かの夫婦がいる。彼らはいつもは平和だが交尾期になると求婚者達の間に、ちょい／＼争いがおこる負けた奴は大急ぎで退散する。勝った方は凱歌を挙げて負けた奴を侮辱する。それから調子をやわらげて目指す雌の周りをぐる／＼とまわる。彼は気取って見せたり恭順の風を示したりする。指先で一本の触角を顎の下へ持ってきて、ひねったり唾液のコスメチックを塗ったりする。拍車をつけて赤い飾り紐の付いた長い後肢で、じれったそうに地だんだ踏み空をける翅鞘は迅速にふるえてはいるのだが、もう音が出ないか、よしや音が出ても整わないかすり音しか出ない。

無駄な告白だ。メスのコオロギはかけて行ってサラダ菜のひだの中にかくれてしまう。しかし彼女はとばりを少し開いてそこからながめている。そして見られたがっているのだ。恋の無邪気なたわむれは何とどこでも同じこと。沈黙と低音のトレモロが続く。この情熱に心を動かされた彼女は、そっとかくれ家から出てくる。相手はメスの前に進み出て、突然くるりと振り向いてメスに背を向け地に腹ばう。後ずさりにはいよって、いく度かメスの下にすべり込もうと試みる。この不思議な後退運動がついに目的を達する。とうとう成功した。さあ来年は芝生にうんとコオロギができるぞ―。」

秋の夜長、チロ／＼となくコオロギを聞きながら、ふと中学時代に読んだファーブルの昆虫記を思い出して、ひっぱり出して見た。このおそるべき根気と詩的な文章で綴られた書物の中に生きる虫けらよ　幸あれ。

正しく守る交通法規

優良運転者の表彰

交通機関の発達に伴ない各地に交通事故が多発してるおり、当町の数百名に及ぶ運転者の中より事故のない運転者の表彰が十月十五日に行なわれた。

これを機会に事故のない安全運転と正しい歩行を実行したいものです。

○三十年日本交通安全協会長表彰
ウデコキ　森田秀司
○十五年新潟県交通安全協会長表彰
泉町　八木常栄
○七年表彰
矢代田　木伏義定
〃　土田慶五郎
泉町　八木貫一
五番町　金沢啓吉
○五年新津地区交通安全協会長表彰
天ヶ沢　平間安雄
泉町　桜井憲三
住吉町　今井藤吾
矢代田　本多三郎

小須戸風土記

明治大正　越後侠客物語

（その三）

柏　大治

母のぶが家業の嫌いになったわけを聞いて見ると、小さな田舎街に同商売の綿屋が二十軒余りもあっては、共ぐいのようなもので将来の見込みがないから、何か他に新しい商売がしたいという。母も喜三次のいうことがもっともであるから

「それなら　お前の好きなように」と希望を入れて許した。ゆくゆくは立派な商人で身を立てたいと考えていたから大喜び。

「お母さん　俺のわがままを許して頂いて有難う」と早速古綿打ちから身を洗って、森田喜三次は、雑貨商で須藤弥七という人の家に住み込むことになった。

この「弥七どん」という家は、昔も今も上町にあって変わりなく商売も広い上に大変信用があって繁昌している。若衆も二三人は置くといった街の一流商店。

弥七どんも良い若衆が来てくれたと喜んだ。それからは商売の取り引きから塩ますの切り方までこまごまと親身になって教えてくれる。一方森田喜三次も根が商人として苦労していたから、たちまち商売のコツを身につけ、愛嬌良く客あしらいする上に、実直に務めているから評判も良い。

近頃では近在の得意先廻りも大部なれ、小合村金津、時には新津へ出掛けたりする。朝まだ薄暗いうちに毛だらけのすねを出し、信濃川堤防づたいに朝露を踏んで、天びん棒を肩に威勢よく小須戸地内を通り抜け、南蒲の田上温泉場を一廻りしお昼に加茂に着く。ここでたいてい篭の中の物は売り切れるのだが、運が良ければ田上で売り上げ温泉場で一と風呂あびて疲れを直して帰って来る

三・四年もこうして務めている内に得意も次第に増えて仕事も楽になった毎日喜三次の姿を待っている人もあるから、商売は滅多に休まない。弥七どんも、その内に喜三次に家の「のれん」を別けてやろうと考えているくらいに、弥七どんの店には大切な人間となった。

森田喜三次は、今日もいつもの通り加茂へ商売に出掛け、途中水田村に小さいが、いきな料理屋で「大倉屋」という家に立ち寄った。

「父さん、おはよう」

「あゝ喜三次かい、早いものだのう。丁度朝茶ができたところだ、一杯飲んで行きな、縁起ものだ……」

「はい　それでは父さん御馳走になるよ」と、店先きに腰をおろし一と休みして田上に着いたのが十時過ぎ、得意場を一と廻りしたが田植えの最中とて農家は留守。家にのこっているのは財布持たずのばばか猫ぐらいのもので一つも売れない。

「こんなことなら　田上に寄り道せずに加茂へまっすぐ行けばよかったわい」と心の中で思ったが、「年中の商売だこんなこともあろう」と薬師如来おさずけの温泉場を廻って、親鸞聖人の旧跡で有名な繋榧のある了玄庵の境内で、天びん棒を肩からおろし、少し遅くなったが中食をすませ、加茂の街に入ったのが三時ころ。

さすが加茂は繁昌の地であるから、一と廻りすると喜三次の篭の中の品物はきれいに売り切れてしまった。ほっと一と息ついて小須戸へ帰ろうと今の加茂駅の通りへ向かってやってくると、旅篭屋らしい家の前で大変な人だかりだ。

「やい、おいぼれ、ひどい野郎だ、バクチはバクチだ……、泊料とは違うわい」

と二・三人の若い者に取り囲まれ、大地に両手をついて、しきりにあやまっている老人を、今にも袋たたきにするようすである。

雨の中で

第八回　天狗会終る

小須戸町愛鱗会と公民館主催の魚釣り大会は、雨の十月十四日（日）西蒲の内野地内築千方で開かれた。雨の為に予定していた人員には達しなかったが約六十名が参加、日頃の腕をみせあったが、雨にたゝかれてあまり元気のでない大会だった。

今回は地域グループを作り、平均で一番良いグループに「グループ賞」をだした。

優賞	森田吉之助
大物賞	阿部安雄
二位	岡部謙五
〃	森田吉次
三位	久保進
〃	高山幸治
〃	大滝修治
四位	海津幸次郎
〃	吉田義人
〃	五十嵐茂
〃	大竹虎一
五位	竹井七郎
〃	鶴巻正
〃	佐野吉三郎
〃	古寺徳治
〃	田中清四郎
グループ賞	横町グループ

豊作句会

小須戸俳句同好会

朝寒の言葉交しつ晩稲を刈る　芳人
稲架乾く匂いや今日ももずたけし　越楼
一灯を灯し夜長の受験生　旺賓
町端の住宅街やダリヤ咲く　一陽
間引き大根夕餉の菜と泥のまゝ　紫川
今日の落葉昨日の落葉へ掃き寄せる　竜朗
豊作も不作もなくて大刈田　香月
老雞の砂浴び居たり吊し柿　渓灯
主人亡く柚子もたわゝに百ヶ日　杏水
小家内卓静かなり栗の飯　水月
朝霜ももずの一声晴れわたり　流水

第十七回 文化祭

各種体育競技 農産物展、学芸会 を添えて

十一月三・四の両日に

昨年の風害により、できなかった農産物展などを入れて、来る十一月の菊花香る日 三・四の両日にわたり第一会場小須戸小、第二会場は公民館、第三会場矢代田小（但し十一月二十三日実施）及び第四会場小須戸中は新校舎完成后に実施する。全町あげての第十七回文化祭である。

今年度の特色としては第一会場での農産物展とその即売、商工物産での町内で生産されるものの紹介と共に一部の即売等でにぎわい、一方昨年より展示されている万年青（オモト）展は一層会員が多くなり、良い品がでるという。

町民余技展も町民各位の協力で、すばらしい書画等が出品される。町の青年団でもここに出品を予定している。

体育館関係でも三日には小須戸小学芸会、四日には例年の県下柔剣道大会が、参加数十チームで開かれるという。

連合婦人会では第一会場に食堂を開き「天高く食欲の秋」をまんきつさせてくれるという。

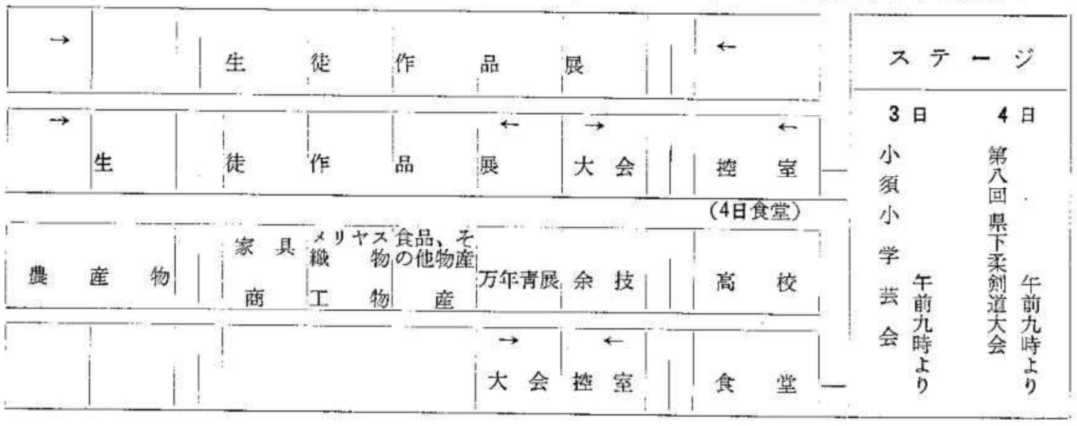
第二会場については階下大菊花展と、大平原を思わせるサボテンの展示で、二階の文化財展は今年の虎年にちなみ、虎に関するものの紹介を予定計画している。

第三会場については都合により、今年も十一月二十三日に実施致しますが、第四会場については一月下旬の予定です。

第17回 文化祭会場御案内

展示時間　**3日** 午前9時より4時まで　**4日** 午前9時より3時まで

第一会場 小須戸小



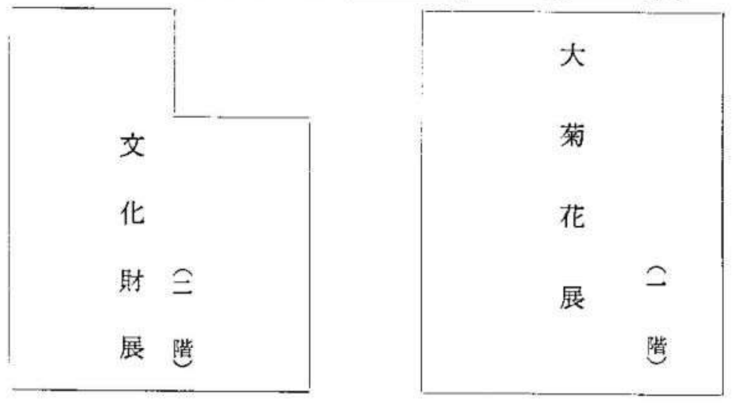
グランド　**4日** 10時より 小須戸駅伝大会

11月4日 9時より
庭球大会
（小須戸中テニスコート）

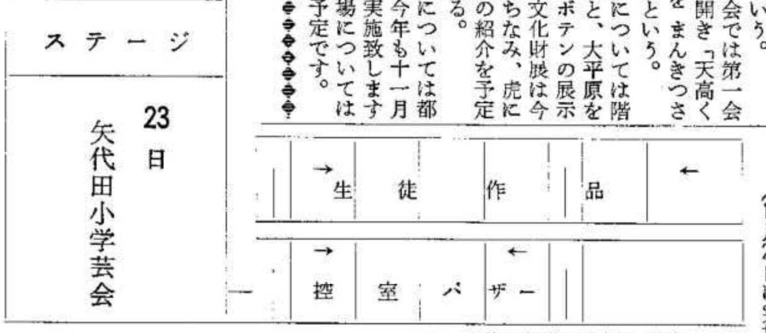
11月25日9時より 町民卓球大会（小須戸小）

11月11日9時より 町民排球大会（小須戸小）

第二会場 公民館



第三会場 矢代田小（11月23日に実施）



※この他に部落の部屋を予定

山女魚（やまめ）釣り

=釣の研究=

森田吉之助

県内各地の河川が大体十一月から山女魚の禁漁期に入ります。

この機会に小須戸周辺の**ヤマメ**の釣り場、釣り方等を簡単に紹介します。

山女魚はサクラマスの陸封されたものといわれており、暗い体姿と体側に朱色の混った楕円形の斑紋が並んだ美しい魚でその棲息する処は、大体水温 十六・七度位の山間の渓流です。

小須戸周辺で自転車で行ける範囲で棲息する渓流となると、「苦ノ沢」を源流として「水田」へ注ぐ「御社川」及びその上流で矢代田山の裏山、通称「大沢」と、護摩堂裏山を源流として「後藤」から「御社川」と合流する「さいかち川」及び上流の各支河等に限られをようです。

ヤマメはその動作の敏捷なこと、臆病で狡猾なことは他の魚に類を見ないもので、ちょっとでも釣人の姿を見たり、異変があれば絶対に餌を食はず、また半日以上その淵で釣りにならないことはこの釣りを された方のたびたび経験されることで、それだけにヤマメを釣るには、できるだけ足音を忍ばせて、遠くから慎重に釣るべきで、仕掛も極めて繊細なものが望そまれる訳です。

普通は道糸八号、ハリス六号、鈎は一本、矢島型アゴナシ七号または鮎掛鈎、錘は原則として付けません。風などあるとポイントに届きませんから、慣れるまで仁丹位の板ナマリを使用します。浮木は使はず糸フケで合わせますが、毛糸、羽糸、時として極小玉浮木を目印として使うのもいいようです。

餌は川虫が一番でブドー虫、クリ虫、イナゴも使い 出水の後にキジ（ミミズ）も効果的で、日頃ミミズの取扱に慣れた私等には仲々捨て難い餌です。その外にイクラ（筋子）が平均いいようですし、大漁となることもありますが、人間様もあまり口にしない高価な物ですからときには一匹数百円也というヤマメが釣れることもあります。

餌はいずれもチョン掛で、砥いだ鈎を出しておきます。毛鈎もいいのですが小須戸周辺では河巾がない為にまだ経験したことがありません。

釣期は雪代の三～六月ころ九～十月が盛期で、どんな浅淵の小石の陰にでも潜んでいるので、道糸を張って打ち込み一発目が勝負で、「ガバッ」と来ますから目印が動く瞬間に合わせ、又は魚が水中で光った瞬間に合わせます。鮒のように餌で口を刺戟されると、口を結ぶような習性はないが、パッと喰って変だと思うとすぐ離しますから、合わせが遅れると、絶対といっていい程釣れませんそこで川上へ、川上へと釣り遡るのが原則のようです。

マスや尺以上のヤマメもいるらしいのですが、小須戸周辺では大体六寸前後が一番ですし、私は現在まで九寸二分の魚拓が最高です。

これ以上のヤマメが小須戸周辺に釣れましたらぜひ御連絡下さい。

読書週間によせて

「みんなの本です みんなで読もう」

十月二十七日～十一月九日まで

図書室のいままで

昭和二十七年八月

○小須戸町読書クラブは二十三年以来の実績をそっくり公民館に移譲した。

○公民館は一般貸出しをする。

○貸出し日＝三・八日の市日午前十時～十二時
午後一時～四時
午後七時～九時

◎二十九年

○読書週間をけいきとして日曜日の貸出しを始める。

◎三十年

○会費一カ年百弐拾円也 読書クラブ会費三カ月百円也。

○一カ月利用者数三百五拾名、蔵書壱千七百冊

○読書週間に映画会開催

○十二月読書クラブ解散

◎三十一年

○読書士の要望により、会費一カ月分弐拾円也にする。

○読書週間を機会に農村部落（分館方面）へ月三回づつの出張貸出しを始める。

○新潟県立図書館長渡辺正亥氏の講演会を開く公民館図書費、六万円

◎三十二年

○小須戸流の図書の分類法を全冊日本十進分類法にあらためる。

○矢代田の竹井製作所長より六万四千円を図書購入費としてご寄付いただく（世界百科事典三十二巻購入）

○出張貸出し 横水、新保両分館利用者の少ないため四月迄に打ち切り一時希望あるまで保留

○読書週間中毎日貸出し実施。

◎三十三年

○読書週間、県立図書館長渡辺正亥氏のお話しの会を開く。

◎三十四年

○図書運営委員、新井公民館図書施設を視察。

○読書週間、映画大会を開催。

◎三十五年

○小須戸町公民館図書貸出し保証料徴収条例きまる。

◎三十六年

○矢代田方面の図書出張貸出し利用者の少ないため一時保留。

◎三十七年

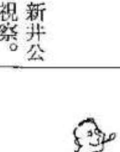
○現在冊数 三、九〇〇冊 購入予算拾壱万円、利用登録者数二六二名。

○今年度十五回読書週間の目標

〃きょうの読書はあすへの希望〃

読書の秋です。みんなで本を読みましょう。そして考える力と視野を広めましょう。

十月の購入図書



◇西遊記 道遠しの巻	邱 永漢
◇雲に向かって起つ(2)	石原慎太郎
◇家計の知恵（暮しの図書室）	執筆代表 氏家寿子
◇かしこい衣生活	執筆代表 小川安朗
◇生活を美しく	執筆代表 藤間正子
◇吉川英治	編 杉森久栄
◇欲望の河	丹羽文雄
◇無効試合	佐野 洋
◇現代っ子飼育法	読売新聞調査部
◇みんなの憲法	編 憲法擁護 国民連合
◇随筆 おゆき	塩田良平
◇運命峠（前・後）	柴田錬三郎
◇日本故事物語	池田弥三郎
◇マリの恋人	鹿島孝二
◇花 祭	安岡章太郎
◇美智子妃殿下の育児 浩宮さま	佐藤 久
◇花と奔流	子母沢寛
◇若い日の真実	武者小路実篤
◇霧と影 海の牙	水上 勉
◇政治の季節	唐島基智三

（読書感想文）

ヘルマン・ヘッセ著

車輪の下を読んで

岡田美智子

秀才といわれたハンスギーベンラート。

彼は神学校へ入るため大好きな釣りも、兎も、散歩も、あらゆる自由を父にとりあげられた。

青白い顔、細い腕、そしてアバラ骨が数えられるような体。指先でポンとつっついたら倒れそうな体は父、先生、牧師、そして町の人々によって異例の州試験を受けるべくあまりにも重すぎる荷をおわせられたのであった彼は悲痛な思いで町を立った。

ハンスには汽車の窓から見る美しい景色も父の励ましの言葉も、すべては心のやすらぎにならず合否の決定的な瞬間に起こる総てを暗示しているようにみえたであろう。その胸をしめつけられるような期待をせおって彼は試験場へ入った。

一日、二日、三日とすぎハンスはしだいに自信をなくしてしまった。悲しみのうちに家に帰り合否の通知が届くまで、ハンスは息のつまりそうな毎日をおくった。だが彼は二番というスバラシイ成績で見事に合格したのだった。彼は先生のこの言葉で、あまりの嬉しさにただぼうぜんとするばかりだった。

ハンスの神学校生徒としての生活が始まった。しかし間もなく同僚の不意の死、親友ハイルナーの放校処分。彼自身も又先生から見はなされて、やがて静養のため故郷へ帰らせられた。

ハンスはそこで周囲の人々の白い目の中で、いつか死を賛美し、自分の一番好きな所を死の場所として選んだ。

そのころ偶然「おじ」の家で働いている明るいエンマという少女に心を引かれるようになり、そこで本当の自由の喜びを味わった。彼の仕事は今までとかけはなれた鍛治見習工でつらかったが、しかしその頃のハンスは州試験を受ける時のような心の底まで自由のない青白い暗い、それでいて目だけがギラギラした少年ではなかった。

彼は同僚とともに初めて酒場へ入り初めてタバコを吸い、初めて酒を飲んだ。つい調子にのりすぎてビールを三本もあけた彼は、はきけをもよおし一人で家へ帰ろうと店を出た。しかしハンスは二度と再び家へは帰ってこのかった。

彼はその短い一生の中で本当の喜び、本当の自由を味わったのは、どのくらいであったろうか。一時は天才と町中の誇りであり称賛された彼――自由を何もかも奪われてしまったハンス。彼は先生の言ったとおり車の下じきになってしまったのだ…。ハンスの一生を考えた時、涙が出て仕方がなかった。

私は勉強もあまり好きでない。ましてそのために自分の好きな事もやめ勉強に没頭するなんて不可能である。しかしハンスに比べて天才でない私は、非常に自由なくらしをしていることをありがたく思うとともに、この尊い自由が放縦にならぬよう大切にしなければならいと考えさせられた。

× ×